

EBINA PrixShimizu 2025

Expo : 12/07(日)~12/11(木)

Visual Arts Contest 参加作品

海老名市文化会館展示スペース、入場無料

審査員：

近藤正勝 (London在住)

伊藤文康 (海老名市教育長)

近藤正勝 (静岡アートカウンスル)

クロード・マックバーニ (Nice在住)

特別ゲスト

書家・金澤翔子

揮毫パフォーマンス

12/10(水) 18:00

招待券申込(80席限定)

mimi@galerieclaude-ebina.art



Galerie
Claude
inEbina

後援：海老名市 & 海老名市教育委員会

主催：www.galerieclaude-ebina.art

Visual Arts Contest / EBINA PrixShimizu 2025

青木 真弓 『猫32連作』から17匹の代表ネコちゃんです。

伊田 順一 『Cantabile』いつものテノール+ピアニストコンビが今回、趣向を変えて、カメラマンとモデルに。大久保さんの魅力を伝えたい。

石谷 果琳 『紡いできたもの』生まれた時は無垢の糸。他者との関わりや好きなものを編み込んで、私の人生コースターがゆっくりと形を成してゆく。

岩壁 善兵衛 『キューブ海老名』2011年から一陽会所属、厚木市七沢で石糸造形 立体アートを創造しています。

海老名市立柏ヶ谷中学校2年5人組『馬』木屑・アクリル絵の具・ボンドを混ぜ、針金製の骨組みに、何回も何回も塗り重ね、2ヶ月費やして若い馬が生まれました。池永龍之介、稲村 遼、岩橋蒼泰、茂木水葉、末木 杜の、仲良し頑張り組です。

伊藤 月山 『笑』書道で動きを表現する風舞書。絵画として鑑賞して下さい。

井上 菜 『アセビ』グレー服の少女がホワイト服の少女に向けたアセビの花言葉は「献身」と「犠牲」。二つのS(道)の中間に立つO(二人の少女)は私達Oは同時に、私達が壊し続けている動植物をも意味しています。この空間が今、世界に向かってSOSを発信する。

牛村 八重子 『菜の花いろの燈』郷愁の田園詩人・木下友雨の句です。早春、夕暮れ時の薄闇を想像しながら、かな調和体で優しい思いを込めました。

大原 正稔 『わが子の好奇心と親心』好奇心旺盛な我が子を嬉しく見守るつもりでも、つい「ダメ」を出してしまう。我が子への期待と心配の葛藤は世界中どこでも、海の中でも同じではないかと、、、

金子 直人 『アンテロープキャニオンの光景』会社の永年勤続制度のお陰で、訪れたアメリカ。その圧倒的な自然美にすっかり魅了されてしまい、今は毎年度米してます。

北川 エミ子 『本草の着物を縫ったお雛様』羊革に着物の柄を刻印し染め上げ、裁断して、木目込み人形に着せました。綾瀬市の教室では、生徒さん達と製作の工夫や楽しさを共有しています。

草山 歩 『はじまりの街』厚木市生まれ。そして、閉ざされた地域コミュニティや家庭から脱出したのが十数年前。今、改めて故郷と向き合い、記憶の断片を拾い集め、再解釈しようと試みました。

小林 天佳 『私の親友』13年の私の人生で一大事なものを題材にしました。

小林 直和 『光』マープリングで染めた紙に大好きな字を描きました。

小林 千里 『雨上がりの朝』裏山からのエールへたくさんのハート

小松 由侑 『紅葉デート』彼氏の写真を撮ろうとする彼女視線を予想し、表情と空気感に、こだわりました。

小室 咲樹 『翔犬』飛ぶ犬をモデルにして描きました。犬やペットたちがこんな笑顔でいてほしいという願っています。

佐藤 かなみ 『上空の一つの目』はるか上空に目が輝く。金色、エメラルドグリーン、そして黒の筋をおび、周囲に激しい熱が渦巻き、怒りのエネルギー、鮮烈な赤を放ち、黄色、青、紫の閃光が遠く広がってゆく。そうして私は、大自然の幻視を育み、灼熱エネルギーをキャンバスに注ぎ込む。

關 恵美子 『写経：妙法蓮華経普門品』引退して、ほぼ10年。独り暮らしの中で、時折は写経に没頭してます。

田中 愛美 大好きな職員さんが王様で私は王子様。「夢かわ」タッチの私達ふたりとも、実はユニコーンなんです。

浜田 聡子 『メジロ』鳥が好きなので、自然なメジロを描きました。

浜田 真人 『手造りクジャク』最近AIでの絵画生成などが流行していますが、2年目社会人の誇りを持って、自分の手形を羽にして孔雀を作成しました。本間 このみ 『メリットとデメリット』成長することで得るものは知識、感性、社会性。対して、失うものは想像力、発想力。どう思います？

中野 百合子 『命』私達は生かされています。野菜・魚・肉を食べて、この生は支えられています。優美会主幹。

中村 奈都子 『我が街 海老名』えびーにゃ、カワラヒワ、サツキ、ツゲ、全部が海老名のシンボルです。可愛さを出す為に、羊毛フェルトを辛抱強く、優しく、チクチクしながら形を整えました。

中村 美喜 『煌めく笑顔と夏の海』ドリッピングで細かい水しぶきを飛ばし、海への差し色は黄、全体に星を散らして、図を締めました。

牧 恵美子 『観音菩薩立像』愛し子を10歳で亡くし、途方に暮れた日々、観音様の優しい母姿に導かれ、心が癒されました。懐かしい思い出と感謝を込めて、観音様を絹布にお招きしました。

松本 栄子 『花園』傾倒しているプラトン美学から一節「芸術は、ただ単に私達の日常をそのままに模写するのではなく、世界に存在している《より高い》ものを強化し、顕在化させるのだ」

前野 晴香 『どんぐりとまつぼっくり』可愛いとんがりどんぐりさん達、松ぼっくりさんは一人だけで隠れん坊。

溝口 陽子 『還ル』大型つるバラリースで輪廻転生を表現しました。そこに人影がポーズしてます。

安田 麻里子 『さくら』海外から日本を想う時に思い出すのは、満開の桜。何度見ても見飽きることはない景色。これからの人生にも彩りを、、、

山口 孝之 『新玉ねぎ、ナス、キュウリのある静物』家庭菜園で収穫する春、夏野菜をモチーフに。もっと視覚に訴える感性を身につけたいと精進です。

山下 政嗣 『魔女の微笑み』定年後、田園の代掻き・稲刈りなど「写真で四季を追う」内に、今まで気付かなかった日常の色づきが見えてきて、心が躍った。以来、感情を撮すようになり、シャッターを押すのが楽しい。

山高 香澄 『満月の十五夜のうさぎさん』季節のモチーフを散らばして、そこに横向きウサギと後ろ姿のウサギ。グルグルと躍ってます。

EBINA PrixShimizu 2023. 音楽コンクール : 松井頌馬 二見流太 佐藤ほのか 伊田順一 牛村月乃 小林直和 里村修平 井上真由美 西原加奈子
北村隆子バイオリン教室アンサンブル 黒川陽太 伊地知星奈 松井萌佳 林田雪離 松本 伶 小野寺麻紀

EBINA PrixShimizu 2024 作曲家/池辺晋一郎を迎えて、レクチャー11/03 村田新吾

2025/04/13「春に想う・コンサート」Duo Deux Mères 小野寺 陸 松井頌馬 和谷泰扶 『悪魔の飽食』をうたう東京合唱団
神戸市役所センター合唱団

EBINA PrixShimizu 2025 Visual Arts Contest 書家/金澤翔子

EBINA PrixShimizu. は、様々な分野で活躍なさっている皆さんに、自由に、楽しく、参加して頂きたいと企画しています。

EPS 2026 に〈落語・漫才・コント〉、EPS 2027 に〈ブレイクダンス〉を予定。5年チクルスですので、EPS 2028 はまた、音楽コンクールに戻ります。

皆様の参加・応援をお待ちしてます。

2025年9月編集 Mimi Hiroe Shimizu-MacBurnie